



地球

2005年秋号

男女が共に生きる情報紙 VOL.66



ちっちゃな、みんなの、たからもの

～次世代育成支援対策推進法が施工されて～

未来を担う子どもたちと、子育て中のママを取り巻く環境は今？
そしてこれからはどうなっていくのでしょうか

もくじ

- 子育て支援の現場から ～藤沢子育て支援センター・子育てアドバイザーにきく～
- ささやかな夢を実現するのがなぜ難しい？
- 男も子育て
- 広がってます、次世代育成支援の輪
- インフォメーション

子育て支援の現場から

～藤沢子育て支援センター・
子育てアドバイザーにきく～



藤沢駅南口。スーパーや商店が立ち並ぶ街中に藤沢市立藤沢保育園は建っている。その一角の小さな部屋が藤沢子育て支援センターだ。ドアを開けるとそこは新生児から2、3歳の子どもとママでいつも大賑わい。特に暑さ、寒さの厳しい日などは、子どもを遊ばせる場所に困ったママたちが避難してくるから、すごい人口密度になる。

「ここにればとりあえず間が持つから助かるよね」

ママたちは口々にそう言いながら、普段の子育てで気になることから夫の悪口、今日のおかずに至るまで語り合う。そうすることで「大変だけど、みんながんばってるんだな。私もがんばろう!」と、日ごろのストレスを発散できる。その傍らで子どもたちは様々なおもちゃや絵本で遊べるから機嫌もいい。まさに一石二鳥である。



ここにはママの相談にのってくれたり、子どもたちと遊んでくれる「子育てアドバイザー」と呼ばれる人たちが常駐している。彼女たちは、すでに子育てを終えた「子育ての先輩」で、この仕事に関わるため

の研修を受けた人たちだ。夜泣きや偏食、反抗期……新米ママたちは、どんな些細なことでも心配なもの、アドバイザーさんたちはそれらにきちんと親身になって応えてくれる。「私たちの頃と比べて、今は情報が多すぎるからママたちは、大変だと思いますよ。正確で、自分にぴったりの情報を選びとることが、逆に新しいストレスを生んでいる気さえしますよね」

と語るのは、石曾根晶子さん。彼女はこの支援センターができる前から、市の児童福祉課の一角で子育て支援に携わってきた人だ。

「最初はね、電話相談だったんだけど、課に直接来たり、電話してくる人って相当の覚悟がないと無理でしょ。でももっと気軽にママたちの力になりたかったんですね。それで公民館の巡回訪問を経て、平成11年、藤沢子育て支援センターができたんです」

家族の形態は変化し続けてきた。核家族化が進み、近くに悩みを打ち明けられる親戚はいない。隣近所ともあまり付き合いはない。さらに子育ての悩みを話し合える友達もなかなか作りにくい現実。

「だからよけい『母親はこうであるべき』っていうワクに縛られちゃうのよね。日本古来からある、理想の母親像みたい

ささやかな夢を実現するのがなぜ難しい?



「超少子化社会と向き合う」をテーマとした藤沢市の生涯学習大学の連続講座に出席し、少子化の背景となっているさまざまな問題を学んだ。そのなかで印象に残ったのは、女性に育児負担が偏っていることが、少子化が進行する大きな要因になっているということだ。

スウェーデンでは、1980年代に合計特殊出生率（一人の女性が15～49歳を経過する間に産むと考えられる子どもの数）が1.3まで落ちたが、そのことを国も自治体も企業も深刻に受けとめて、徹底した子育て支援の政策をとったそうだ。そのおかげで現在1.7まで回復してきたという。日本でも、1.29ショックといわれ、次世代育成支援対策推進法が施行されるなど、さまざまな取り組みがなされてい

るが、欧米先進諸国とくらべると、相当な遅れをとっている。文化や伝統、家族制度、社会システム、人々の考え方が異なるから、単純に仕組みを真似しても機能しないという側面もあるが、北欧の手厚い子育て支援策が、やはりうらやましく感じる。

子どもを育てながら夫と温かい家庭をつくりたいし、やり甲斐のある仕事も続けて自立した生活を送りたい……。いつの頃からか、そう思っていた。けれど、そのささやかな夢を実現することがけっとう難しいことを実感したのは、30代にさしかかった頃だ。「子どもを産みたい。でも努力してせっかく手に入れたこの仕事はどうする?」そんな問いかけが、毎日頭のなかを駆けめぐっていた。女性にかかる育児



左から子育てアドバイザーの石曾根さん、石崎さん、斉藤さん

なものも期待されている気がして、ママたちは追い詰められていっちゃう。でも、良い母親になんかなる必要はない。無理しちゃいけない]

斉藤秀子さんは言う。彼女は出産を機に会社を辞め、専業主婦を12年間務めた。それから一念発起、大学で学んだ心理学を再度勉強しなおし、この仕事に就いた。そんな山あり谷ありの人生経験があるからこそ、ママたちへのアドバイスも、説得力のある、心のこもったものになるのだ。育児や夫との関係、家計やママ自身の将来のことに至るまで共に考え、時には一緒に泣いてくれる彼女たち。

石崎佳子さんはにっこりと笑いながらこう言った。

「ママたちを見てると、今頃になって身につまされるといっつか、当時の自分の駄目さ加減を嫌というほど痛感させられる時があるのよ。それを昇華していく作業が、この仕事をしていて辛いと思う瞬間かな。それ以外は本当にやりがい

のある仕事だと思う」

それは実に意外な話だった。毎年増えつつある、深刻な相談への対処の方が辛いのでは? と想像していただけに。

「確かに、その人の人生に踏み込むわけだからね。だけど、一緒に悩んで、問題が解決したとき、ママたちの笑顔が戻ったとき、この仕事をやってきてよかったな、と思うの。私たちのやっている仕事はママたちを助けること。だけど、それは子どもたちを助けることに直結しているのよ。だからこの場所は大事な場所だと思う」

斉藤さんの言葉に石曾根さん、石崎さんも大きく頷く。

少子化対策が叫ばれる中、子育てを取り巻く環境はなおも厳しいのが現実。どうすれば子育てしやすい社会になるのか、との問いに、

「一気に社会や世の中の人々の意識を変えるのは難しいと思う。でも一人ひとりが声を上げ続けるのは大事よ。諦めたら終わりだもの」

と応えてくれた斉藤さん。彼女の言葉は実に頼もしかった。

「結婚して、子どもを産むと、自分の本名を書く機会って減るでしょ? だからここに来てもらうと名簿にはまずママの名前を書いてもらうの。だって、ママになってもみんな、"ひとりの女性"であることに変わりはないものね」

そう語る石曾根さんの表情はとても優しい。ずっと彼女たちは、ママたちをいつもこんなふうに見守ってきたんだな、と感じた。

(中村 記)

の責任と負荷は大きい。社会的な支援も家庭内での支援も望めないなら、仕事を選ぶか子どもを選ぶか、二者択一の道しかなくなってしまおう。それが少子化の背景の一つとしてあげられていることは、私自身の経験からも実感できる。

環境が変化してきたと考えられる現在においても、夫婦間の育児分担の調査によれば、「女性9対男性1」ないしは「女性8対男性2」と回答している人が圧倒的に多い。こうした現実に対して理想として考えているのは、男性は「女性5対男性5」が最も多く、女性は「女性6対男性4」が最も多い。男性も同等に育児を分担したいと考えている人がけっこう多いことが、このデータからは見てとれる。厳しい労働環境と社会的な支援が乏しいなかで、男性も女性も理想と現実のはざままで悩んでいるというのが現在の状況なのかもしれない。

多様な生き方が選択できそうな社会になってきた。でも、本当に自分らしいと思える生き方が実現できるかといえ

そうでもない。私も結局は会社を辞めざるを得なかった。辛いことに結婚に属さなくてもできるライターであり、遅くもゼロ歳児から保育園にお世話になることができ、夫の両親の協力を得られたから、二人の子どもを育てながら、何とか仕事を続けている。



息子や娘が子育てをする年齢になったとき、私のように育児倦怠ではなく、男性も女性もイキイキと楽しく育児も仕事も自然にできる社会になっていることを願う。それが結果的に少子化問題の解決につながっていくに違いない。

(松永 記)

男も子育て



8月6日の土曜日、藤沢市の生涯学習大学の講座「男も子育て～これからの男と女」に参加した。

講師は、田尻研二（たじりけんじ）氏。

今から20年前、共働きだった彼は、保育園の送迎が会社の就業時間では間に合わなかったため、毎日一時間の育児時間ストライキを労働組合の支援のもと、4年にわたっておこなった。後に会社は「男の育児時間」を制度化した。田尻氏は、

「特別なことをやったのではなく、結婚し、子どもが出来て二人が働いていくということは他の人たちも遭遇すること。制度化していくことは大事なことだと思い、1人では弱いので、労働組合の力を借り、減給されながらも会社側と交渉を続けました」と振り返る。

直属の上司の理解度、器質が大きく左右するし、年配者の理解が少なく、「男性が育児に携わろうとしても何もやることはないではないか」という人もいたそう。一般に妻の親よりも夫の親の方の理解が低く、ご自身の親も同じで、TVに子育て中の姿が放映されたときには、「男がここまで家事、育児をしなくても、他の人はうまくやっています」と不機嫌に……。

「子どもの頃、母親が勤めに出したら、とても活き活きしていました。私はそんな姿を見て、女性が外で働くことはいいことだと思っていましたから、社内結婚し、妻が働くことに賛成でした。妻の家事・育児をみていて大変なので助けたいと思ったのです。先ず掃除、洗濯など家事からはじめ、育児は子どもが病気のときなど自分一人で看ると緊張するし、もうぐったりでしたが、家事についても徐々に慣れ、夕食も作れるようになって

いきました。やはり続けることにより身につくもので、たまに手伝うのではなかなか身につかないと思います」と振り返る。育児によって

①夫婦の絆が強くなり、仲良くなる

②夫婦仲のよいことは子どもに結婚観のよいイメージを与えられる

③子どもは多くの人の手を煩わして育てるものと実感……母親密着ではなく適度な距離感が保てる

④夫婦に会話があって家庭に居場所がある男性はポジティブと折れない（すぐ自殺というところにつながらない）

などが見えてきたのだそう。

また、田尻氏は「育児する時間をどうやって作るのか、会社での仕事とどう時間をシェアするのか、男とか女とかに限定しないでそれぞれの親が育児にかかわる時間をどうやって確保するのか」を考えていく「男も女も育児時間を」連絡会（育時連）の会員でもある。

（育時連ホームページURL：<http://www.eaq.org/>）

会社で仕事中の父親のそばで絵を描いたりおもちゃで遊んだり……デンマークでは珍しい光景ではないという写真と新聞記事が紹介されていた。1980年代初め歌手のアグネス・チャンさんが子どもを職場に連れて行き、子育て論争を巻き起こしたことがあったが、現在の世論は彼女にどんな反応をするのだろうか。笑い話で振り返るほど、ことは進んでいないが確かな歩みは感じる。（井戸 記）

講師：田尻 研二（たじりけんじ）氏

1949年福岡県生まれ。東北大学工学部金属学科卒業。1974年エッソ石油入社。2003年早期退職。現在キャリアネットワーク（株）に所属。キャリアアドバイザーとして企業や大学などに不定期に出演。

1998年、総務府閣内会「少子化への対応を考える有識者会議」委員。2001年、内閣府・男女共同参画会議「仕事と子育ての両立支援策に関する専門調査会」委員。

子育て支援センター

【子育てひろば】 月曜日～土曜日 10:00～15:00

【個別相談】 月曜日～土曜日 9:00～16:00

【子育て情報】 月曜日～土曜日 9:00～16:00

☆ご相談があれば、子育てアドバイザーに気軽にお声をかけてください。（面接・電話・FAX・訪問など）

■連絡先・問合せ

☆藤沢子育て支援センター（藤沢保育園内）

住所：藤沢市鵠沼石上1-11-5 藤沢保育園内

TEL:0466(22)7037/FAX:0466(22)7037

☆湘南台子育て支援センター（湘南台文化センター内）

住所：藤沢市湘南台1-8 湘南台文化センター地下1階

TEL:0466(42)5533/FAX:0466(43)1199

広がってます、次世代育成支援の輪



「次世代育成支援対策推進法(以下、次世代法)」という法律をご存知でしょうか? 少子化が問題になっている今、子育てしやすい環境作りを企業も含めた社会全体で応援していきましょう、ということを取り決めた法律がこの次世代法なのです。

具体的には、301人以上の従業員がいる企業は、仕事と子育ての両立を図るために必要な雇用環境整備計画を立てて、国に届出することが2005年4月1日から義務付けられました。301人未満のいわゆる中小企業は、計画の策定・届出こそ義務付けられていないものの、雇用環境整備作りにも努力しなくてはなりません。

雇用環境整備といっても、様々な取り組みがあります。育児休暇を従来よりも延長することで子育て支援したり、あるいは子どもの出産時・入学時に資金援助する企業もあります。あるいは、在宅ワークを認める、出産による退社した従業員を再雇用する、など育児が

一段落ち着いたときに職場に復帰しやすい環境を整える企業も出てきました。育児支援のために出勤時間に自覚性を持たせたフレックスタイム制を導入する、社内に託児所を新設する、男性社員にも育児のための看護休暇を認める、とその取り組み方は様々ですが、多くの企業が真摯に次世代法に取り組んでいこうとしています。

始まったばかりの取り組みなので、課題もあります。義務付けられているとはいえ、罰則規定があるわけではないので、積極的に取り組んでいる企業とそうではない企業に大きな温度差があります。また、制度ができたにも関わらずそれがうまく機能していないケース(男性の育児休暇など)もあります。ともあれ、企業はもちろんそこで働いている人達も子育てに協力していかなくては、少子化は改善されません。子ども達が、健やかに育つ環境作りを社会全体で応援しましょう。

(吉村 記)

～次世代法に取り組んでいる企業の実例～

【育児休業延長】

A社	満3歳まで(従来は満1歳まで)
B社	2歳になる月末まで(従来は0歳の間)

【資金援助】

C社	第一子(50万円)、第二子(70万円)、第三子(90万円)と出産時に祝い金を支給
D社	親との育児分担などでの転居費用を補助
E社	出産に100万円の一時金
F社	2歳まで年30万円の養育費

【看護支援】

G社	看護師常駐の社内託児施設
H社	年5日間の看護休暇
I社	医療休暇を男性の育児にも適用
J社	育児・介護に従事する社員に年間20日までの在宅勤務を認める
K社	子どもが3歳になるまでの間、連続2週間の育児休暇制度(有給)を創設

【職場復帰支援】

L社	担当上司との定期的な情報交換制度
M社	育児休業中の社員が自宅パソコンから会社の情報を得られるシステムを新設
N社	復帰前の上司との面談を制度化
O社	ネット活用で育児中の在宅勤務
P社	育児休業中の社員を対象に、在宅勤務制度を導入
Q社	出産で退職した社員を対象とした再雇用制度を創設

【その他】

R社	女性の交流組織で仕事・育児両立を支援
----	--------------------



「ふじさわ男女共同参画プラン2010」改定素案に対するご意見を募集します!

- 目的: 当該プラン策定から5年が経過し、社会経済情勢などの変化やライフスタイルの多様化に伴い、時代に即した施策を展開するため見直しを実施します。
- 実施内容: パブリックコメントと市民電子会議室
- 実施期間: 10/5(水)から11/4(金)の1ヶ月

◎パブリックコメント

- 意見等提出できる方: 市内在住・在勤・在学の方、市内に事業所を有する方およびその他利害関係者
- 公表場所: 男女共同参画課・市役所受付案内・各市民センター(石川分館を除く)・公民館ほか、市のホームページの「パブリックコメント」
- 意見提出方法: パブリックコメント記入用紙または任意の用紙。男女共同参画課へ郵送、ファックス、持参。または、市民センター・公民館(石川分館を除く)へ持参ください。ホームページ「パブリックコメント」からも提出可。 ※持参の場合: 月～金曜日 8:30～17:15
- 提出いただいた意見の取り扱い: 意見等をお寄せいただいた方に個別に回答はいたしません。意見等を類型化し、市の考え方を付けて公表します。

◎市民電子会議室

- 参加方法: 男女共同参画課のホームページをご覧ください。

※いずれも意見等は電話では受け付けませんのでご了承ください。

インフォメーション

◎男女共同参画課の主な催し

共に生きるフォーラムふじさわ2005を開催します

笑って・感じて・気づいて・変わる ～桂文也のジェンダーブレイク～

- 内 容：講演と落語 ■講 師：桂文也氏(落語家)
- 日 時：11/5(土)13:00～15:30(開場12:30)
- 定 員：150人(申込み順) 参加無料
- 会 場：藤沢市役所 新館7階 第7会議室
- 申込み：電話 FAX メールのみで、①住所②氏名③電話番号④保育の有無(子どもの名前・年齢)を記入のうえ、男女共同参画課へ 共に生きるフォーラムふじさわ2005実行委員会へ(保育申込みは10/27(木)締切)

◎労働会館の講座

問合せ・申込み：☎ 26-7811

就職支援セミナー

- 内 容：就職のプロセス、適職選択、応募書類の書き方、面接対策ほか。
- 日 時：11/1(火)、12/6(火)、1/11(水)
①正社員希望者対象……………13:00～17:00
②パート・アルバイト希望者対象…10:00～12:00
- 対 象：市内在住または在勤で就職・転職を希望する方、各36人
- 申込み：広報ふじさわ各月10日頃に掲載

就職支援個別カウンセリング

- 内 容：就労に向けた相談に個別にアドバイスします。
- 日 時：11/10、17、12/1、8、15、22、1/5、12、19、26(全木曜日)
- 対 象：市内在住または在勤で就職・転職を希望する方、各5人
- 申込み：広報ふじさわ各月10日頃に掲載

かがやけ地球は市民の編集員さんの企画・運営によって、年4回発行しています。

編集スタッフ：井戸君江・中村博子・松永美佐英・吉村正春

◎公民館の主な催し

問合せ・申込みは各公民館へ

中高生のためのライブアップセミナー 湘南台公民館 ☎ 45-1600

- 内 容：給手紙、アロマ石けんづくり、音楽療法
- 日 時：12/6、13、20(全火曜日) 10:00～12:00
- 対 象：成人女性20人 ■申込み：11/18(金)より先着

教育文化講演会 片瀬公民館 ☎ 27-2711

- 内 容：講演「心の病にならないように」
- 講 師：町沢静夫氏 ■会 場：片瀬中学校
- 日 時：11/19(土)14:00～15:30
- 対 象：どなたでも ■申込み：当日来校(片瀬中学校)

地球環境防衛隊2005/パート3 藤沢公民館 ☎ 22-0019

- 内 容：藤沢めだかの観察
- 日 時：11/26(土)13:30～15:30
- 対 象：小学3年生～6年生30人
- 申込み：11/14(月)から 電話または来館

教育文化のついで 善行公民館 ☎ 81-4431

- 内 容：親子で語りつこう。大切な命～戦後60周年 平和への願い～映画「ひとつの花」の上巻と下巻による戦争体験のおはなし、「平和ミュージカルふじさわ」による歌と踊り
- 日 時：11/5(土)10:00～12:00 ■対 象：どなたでも
- 申込み：当日直接来館(申込み不要)

成人式振袖

貸衣裳



七五三

卒業式袴

- 藤 沢 店 0466(23)1918
- 茅ヶ崎 店 0467(85)4390
- いざよい 0466(23)5235

おかげさまで
創業40周年



ふれあいのひろば

フジサワ名店ビル

☎ 0120-111-391 ☎ 23-0111(代)

<http://www.fujisawa-meiten.com>

lanamotoya.com



いざよい

アクティブミセスからシニアまで
快適生活をサポートする

ユニバーサルファッション・ショップ

オシャレで着心地のよい服を
豊富に取り揃え、皆様のご来店をお待ちしております。

日経経済新聞、暮らしの手帖、テレビ朝日など
今、旬な店として取り上げられました。

藤沢さかい屋2F・JR藤沢駅北口すぐ TEL/FAX 0466-22-3109

藤沢・茅ヶ崎・寒川「湘南」がエリアのFM放送局

FM 83.1 MHz
RADIO SHONAN FM83.1 MHz FUJISAWA

<http://www.radioshonan.co.jp>

STUDIO FAX No.0466-29-2121